

1人当たりの名目GDPが 1,000ドルを超えた中国

地域別名目GDPの数字を読む

増田 耕太郎 *Kotaro Masuda*

(財)国際貿易投資研究所 研究主幹

中国の1人当たりの名目GDPは2003年に1,000ドルを超えた。試算の根拠となった中国のGDP統計や人口統計は信頼性に欠けるのでは、との疑問を呈する意見もあるが、中国の資料からみた地域別(省・市別)の状況をまとめてみた。躍進著しい中国経済の発展地域と経済発展が緩やかな地域の格差はどの程度であるか、データでみてみることにする。

中国の1人当たりの名目GDPは2003年に1,000ドルを超えている。IMFのIFS統計(2004年8月号)掲載の名目GDP(以下「GDP」と記す)をもとに試算すると1,081億ドル。中国の対外経済年鑑(2004年版)掲載のGDPをもとに試算すると1,096ドルである。試算には米ドル建てに換算する為替レート、2003年の人口試算などの問題があるものの、いずれも1,000ドルを超えている。なお、02年の1人当たりのGDPは955ドル。03年の対前年増加率14.0%は1997年以来の高い伸びであった。

中国の1人当たりのGDPは、世界の中で99番目に相当する規模である。米ドル建てに換算した1人当たりの名目GDPは、1980年当時は304ドル、1990年は332ドルとなり、80年代の10年間における増加額はわずか28ドルにとどまっていた。しかし、次の10年間では514ドル増え、2000年が846ドルと10年前の約2.5倍増になった。その背景には人口の増加をはるかに上回るGDPの増加がある。GDPの平均上昇率は、1980年代の約2.4%から約10.9%と高まっている。

1人当たりのGDPが1,000ドル近

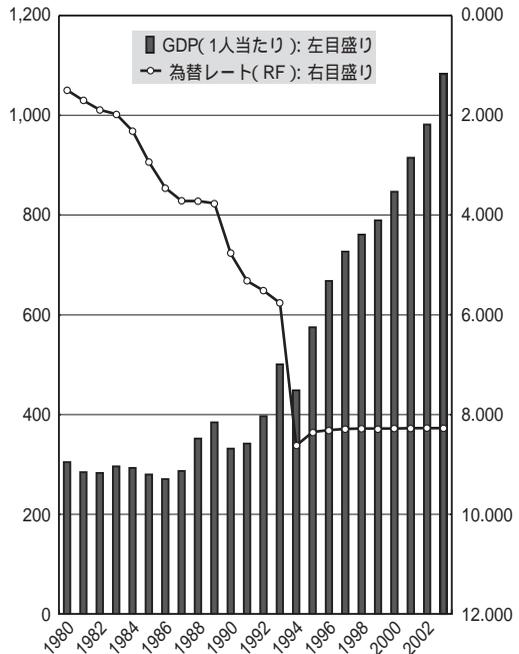
くになると、さまざまな消費財の購入が急速に広がる、経済成長のスピードが高まる、などが多くの国々の経験からいわれている。中国は言うまでもなく世界最大の人口（約 13 億人）をもつので、人口小国と異なり 1 人当たりの GDP を引き上げるのは容易でない。それだけに、一つの目安として 1,000 ドルを超えたことは注目値する（右図参照）。

中国を含む各国の GDP 統計の作成方法や精度の違いを無視し、アジア諸国の 1 人当たりの名目 GDP を計算すると、以下のようになる。

- 1) 日本(33,638 ドル)を除くと、2 万ドルを超えているのは香港(22,169 ドル)とシンガポール(20,806 ドル)である。世界の 20、21 番目である。次いで 1 万ドル台の台湾(12,660 ドル) 韓国(12,591 ドル)と続く。
- 2) マレーシア(4,216 ドル)とタイ(2,276 ドル)は、中国の約 4 倍、約 2 倍である。

- 3) 中国より少ない 1,000 ドル以下の国では、人口が約 8,000 万人のフィリピンが 999 ドル。約 2.2 億人のインドネシアが 796 ドル(2002 年) 約 10.7 億人のインドが 556 ドル、約 1.5 億人のパキスタンが 453 ドル、8,100 万人のベトナムが 437 ドル、約 1 億 4,700

中国の 1 人当たりの名目 GDP (米ドル)と為替レートの推移



(出所) IMF-IFS (2004 年 8 月号)

(注) 掲載の名目 GDP を対米ドル為替レート(RF)でドル建てとした。中国元の為替管理を反映し、長期間の米ドル換算による比較は妥当であるかどうか等の問題が含まれている。

万人のバングラデシュが 352 ドルと続く。

なお、1,000 ドルに達した時期は、香港とシンガポールが 1971 年、マレーシアと韓国が 77 年、タイが 88 年である。

地域別格差の最大は約 10 倍

中国は地域格差が大きいから、中国 1 国で捉えるより地域ごとに把握するほうが、中国市場を理解するのに役立つ。省・特別市を個別にみても人口が大きいと、世界規模でみても 1 国並みの人口がある。例えば上海市、北京市だけでも 1,000 万人を超える人口をもち、上海市だけでも十分なマーケットサイズといえる。

省・市別に作成された GDP の作成方法や精度に対する疑問もあるが、そうした点を考慮せず、対外経済貿易年鑑（各年版）の省・市別データを表にとりまとめたものが、本誌巻末に掲載した統計である。それを手がかりに、主だった特徴を挙げてみる。

地域別の GDP をみると、最も高いのが広東省。広東省の GDP は世界の GDP の順位でいえば 31 番目に相当するフィンランドと同規模になってい

る。2 番目の江蘇省はアイルランドより規模が大きい。一方、地域別 GDP が最も小さいチベット自治区と広東省を比較すると、広東省はチベット自治区の約 74 倍の大きさである。1999 年は約 80 倍であったが、いずれにしても地域間格差はきわめて大きい（表 1）。

人口の違いを考慮して 1 人当たりの GDP で比較すると、最も大きい浙江省の 2,426 ドルと試算可能な地域の中で最も小さい貴州省（423 ドル）とは約 5.7 倍の差がある。1999 年時点では約 4.9 倍だったから、中国の公式統計をみる限り格差は広がっている。

都市部と農村部の格差をみるために、1 人当たりの GDP が最も大きい上海市（4,414 ドル）と貴州省を比べると、その格差は約 10.4 倍となる。1999 年時点では 11.1 倍で、10 倍を超える格差があることに変わりはない。

なお、東部沿岸地域とそれ以外の地域の格差は、1999 年の 2.0 倍から 2004 年の約 2.1 倍と広がっている。

上海市はマレーシアと同規模

上海市の 1 人当たりの名目 GDP

1人当たりの名目 GDP が 1,000 ドルを超えた中国

(4,414 ドル) は、マレーシアのそれを反映し、経済規模 (GDP) は、上海市 (755 億ドル) だけでマレーシア人口規模 1,700 万人と 2,450 万人の違い 1 国 (1,031.6 億ドル) の約 4 分の 3

表 1 中国の地域別名目 GDP 額(2003 年)

中国の省別名目 GDP 額と同程度の経済規模の国					1人当たりの名目 GDP	
	地域名	GDP(100 万 \$)	国名	GDP(100 万 \$)	地域名	米ドル
上位 5 地域	広東省	164,623	フィンランド	161,870	浙江省	2,426
	江蘇省	150,547	アイルランド	152,123	広東省	2,070
	山東省	150,246	タイ	143,159	江蘇省	2,033
	浙江省	113,507	チェコ	85,438	山東省	1,647
	河北省	85,762	ハンガリー	82,806	黒竜江省	1,403
下位 5 地域	貴州省	16,384	コスタリカ	17,427	四川省	758
	甘肅省	15,762	スロベニア	15,684	雲南省	681
	青海省	4,714	モーリシャス	4,628	広西壮族自治区	680
	寧夏回族自治区	4,656	ブルキナファソ	4,256	甘肅省	605
	チベット自治区	2,229	ラオス	1,921	貴州省	423

(出所) 国際貿易投資研究所「世界主要国の直接投資統計集」(原資料は、中国対外経済貿易年鑑、中国統計年鑑、IMF-IFS)

表 2 1人当たりの名目 GDP と人口の規模

1人当たりの GDP	中国	参考
4000 ドル以上	上海市 (\$4,414 / 1,700 万人)	マレーシア (\$4,216 / 2,450 万人) チリ (\$4,558 / 1,580 万人)
3000 ドル以上	北京市 (\$3,039 / 1,500 万人)	南アフリカ (\$3,542 / 4,500 万人) トルコ (\$3,359 / 7,140 万人) アルゼンチン(\$3,374 / 3,840 万人) ロシア (\$3,020 / 1 億 4,330 万人)
2500 ドル以上	天津市 (\$2,924 / 1,000 万人)	ブラジル (\$2,758 / 1 億 7,850 万人) ルーマニア (\$2,549 / 2,230 万人)
2000 ドル以上	浙江省 (\$2,426 / 4,700 万人) 広東省 (\$2,070 / 8,000 万人) 江蘇省 (\$2,033 / 7,400 万人)	タイ (\$2,278 / 6,280 万人)

(出所) 国際貿易投資研究所「世界主要国の直接投資統計集」(原資料は、中国対外経済貿易年鑑、中国統計年鑑、IMF-IFS)

に相当し、上海市周辺地域を含めるとマレーシア 1 国に近い購買力をもつ市場であることを示唆している。また、最近 3 年間の経済成長率は、マレーシアの 4.6% に対して上海は約 11.1% であり、この差を考えると市場としての上海市の魅力はさらに大きくなる(表 2)。

さらに、上海市とマレーシアの面積の違いを考慮すると、上海市が限られた「狭い」地域に人口が集中しているだけに、販売市場としてみた場合の魅力は高まる。マレーシアと上海市の所得分布が近似していると仮定すれば、単位面積あたりに住む高所得階層の密度は高くなり、モノの販売等のうえで効率が良いといえる。

経済成長の格差

1999 年から 2003 年までの最近 4 年間における年平均の GDP 成長率は、全国レベルで 8.6% だった。それを上回る地域は、浙江省の 13.8%、江蘇省の 12.1%、天津市の 12.5%、北京市の 9.8% と東部沿岸地域の省、大都市が並ぶ。上海市は意外にも(?) 7.5% だった。東部沿岸地域以外の内陸部でも高い成長率を示す地域がある。吉林省(10.6%)、黒竜江省(11.0%)、重慶市(10.57%)、新疆ウイグル族自治区(10.2%) などである(表 3)。

表 3 1 人当たりの名目 GDP の増加地域(1999 ~ 2003 年の平均変化率)

	1 人当たりの名目 GDP が全国平均(1,096 ドル)より高い地域	1 人当たりの名目 GDP が全国平均(1,096 ドル)より低い地域
経済成長率が全国平均(8.62%)より高い地域	北京市、天津市、江蘇省、浙江省、遼寧省、吉林省 黒竜江省、山東省 広東省、河北省、福建省、	四川省、重慶市、河南省 内蒙古自治区
経済成長率が全国平均(8.62%)より低い地域	上海市	湖北省、雲南省、海南省

(出所) 国際貿易投資研究所「世界主要国の直接投資統計集」(原資料は、中国対外経済貿易年鑑、中国統計年鑑、IMF-IFS)

富裕層を狙え

日本からある商品を輸出する、あるいは中国ほかで生産した商品を中国国内で販売することを考える場合、広く大きな中国全土を一気に狙うのではなく、段階的に販売地域を広げていく方法を探るのが普通であろう。その際にどの地域を優先するのか、選択の目安に1人当たりの GDP が役立つ。

当該商品の購買可能な人口がどの程度なのかを考えるには、それぞれの地域における所得分布(所得階層の割合)が分かればベストである。例えば、上海市周辺に日本やシンガポールの平均的所得水準と同等の者がどの程度居住しているかの見当がつけば、日本やシンガポールでの販売経験等から販売可能量を推測できる。しかし、所得階層

別の人口を示すデータは見当たらない。そこで、1人当たりの GDP をヒントに考えることになる。1人当たりの GDP が高い地域ほど高所得者層の割合は大きく、人数も多い可能性が高いからだ。

日本の多くの企業が消費市場としての中国を見据え、富裕層を狙った高価格商品の販売を目的にした対中輸出を拡大しようとしている。その目標となる地域を検討する場合、1人当たりの GDP が高い地域ほど有望であるとの見方が成り立つ。上海市と隣接する江蘇省、浙江省を中心とする地域、北京市などの大都市周辺地域が当面の目標となるに違いない。

【注】本稿で使用した統計データ等(および本誌掲載の論文・統計等の多く)は、日本自転車振興会の補助を受けた海外事業活動調査事業の成果を活用している。